

2003年度
ユニバーサルデザインプロジェクトに取り組む子どもたちの
意識についての調査報告
教師の実践に関する意識調査報告

1 はじめに

ユニバーサルデザイン(以下UD)は、女性・男性、子どもやお年寄り、右利きの人や左利きの人、力の強い人、弱い人など、様々な人が使いやすいと思えるように製品や環境をデザインすることである。このプロジェクトは、子どもたちが「みんなが心地よく暮らせるように」、自分たちの周りの「不便」や「普通」をもう一度見直し考えを出し合い、よいものを考えていこうとするものである。

UDプロジェクトにおいて、子どもたちはUD製品のコンテストを行った。本調査では、製品のアイデアを考える過程で、子どもたちはどのような意識のもとに活動していたかについて報告する。および、教師はUDの授業を行うにあたり、どのような教育的意義を感じていたかについて報告する。

2 研究の方法

2-1 児童の意識調査

2-1-1 調査目的

UDプロジェクトに取り組む子どもたちが、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする。

2-1-2 方法

(1) 調査対象者

UDに取り組んだ小学校児童

321名(5年生 261名 6年生 60名)

(2) 調査期日 2003年12月1日～20日

2-1-3 結果と考察

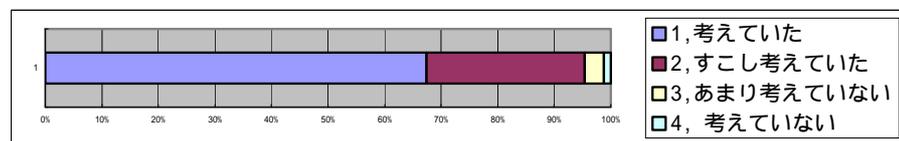
各項目の単純集計結果を示す。

これは、「ユニバーサルデザイン(UD)の活動」についてのアンケートです。
 自分が考えたことに一番近いところの番号を()に書いてください。
 「UDの活動」を通して考えたことや感じたことを思い出して教えてください。
 [<例>2,すこしそう思う 答え(2)]

- 1, UDを考えている時にどのようなことを考えながら活動していましたか。
 [1,考えていた 2,すこし考えていた3,あまり考えていない4, 考えていない]

(1) 子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすいようにする

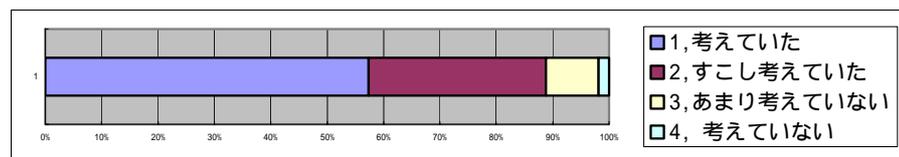
1,考えていた	2,すこし考えていた	3,あまり考えていない	4, 考えていない
216	90	11	4
67.3	28.0	3.4	1.2



この集計を通じて、「使いやすいようにする」と答えている児童が多い。UDの基本概念となるこの「使いやすさ」を追求する意識で活動に取り組んでいたのだと考えられる。

(2) 体が不自由な人が使いやすいようにする

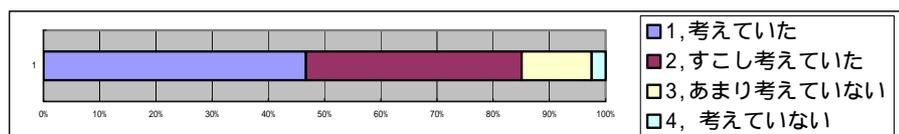
1,考えていた	2,すこし考えていた	3,あまり考えていない	4, 考えていない
184	101	30	6
57.3	31.5	9.3	1.9



これも「使いやすさ」に関する項目である。比較的数値が高い。

(3) 危険がないようにする

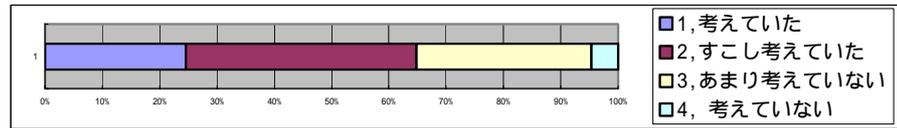
1,考えていた	2,すこし考えていた	3,あまり考えていない	4, 考えていない
150	123	40	8
46.7	38.3	12.5	2.5



UDの基本概念となる「安全性」となると、少し数値が下がる。このあたりは、指導が必要な部分となるか。

(4) 製品を見て使い方がすぐわかるようにする

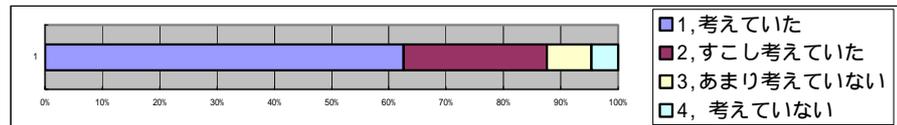
1, 考えていた	2, すこし考えていた	3, あまり考えていない	4, 考えていない
79	129	98	15
24.6	40.2	30.5	4.7



これもUDの基本となる考え方である。かなり低い数値と考えていいだろう。指導が必要か。

(5) 自分にも使いやすいようにする

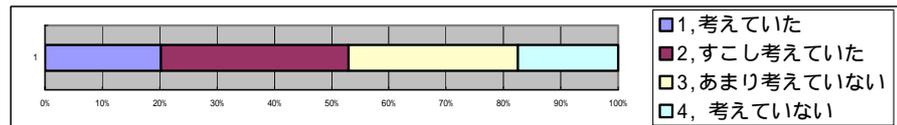
1, 考えていた	2, すこし考えていた	3, あまり考えていない	4, 考えていない
201	80	25	15
62.6	24.9	7.8	4.7



UDの基礎概念の「自分も身障のある方も」という考えに基づく設問である。ここもかなり数値が高い。

(6) これが製品になったら売れるか

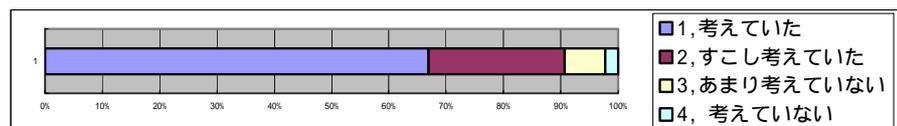
1, 考えていた	2, すこし考えていた	3, あまり考えていない	4, 考えていない
65	105	95	56
20.2	32.7	29.6	17.4



商品開発となると、「さほどでもない」ということか。ここだけは、かなり数値が落ちている。

(7) たくさんの人に使ってもらいたい

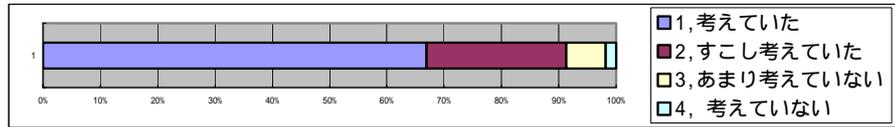
1, 考えていた	2, すこし考えていた	3, あまり考えていない	4, 考えていない
215	76	23	7
67.0	23.7	7.2	2.2



これも「使いやすい」という概念に含まれる項目である。子どもたちの期待が読み取れる。

(8) 自分で考えたものが役立ってほしい

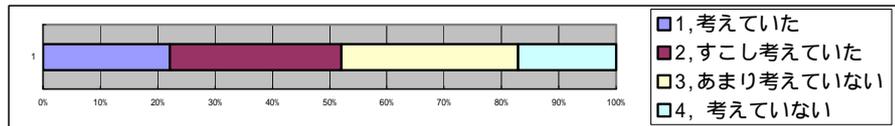
1, 考えていた	2, すこし考えていた	3, あまり考えていない	4, 考えていない
215	78	22	6
67.0	24.3	6.9	1.9



学習の成果を見通しているかという設問である。かなり展望を持っていたことがわかる。

(9) 見た目をおもしろいデザインにする

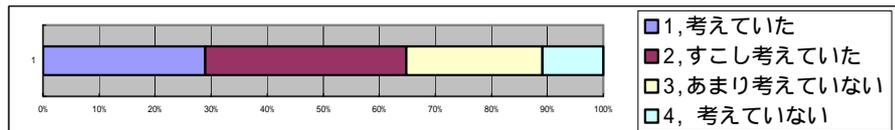
1, 考えていた	2, すこし考えていた	3, あまり考えていない	4, 考えていない
71	96	99	55
22.1	29.9	30.8	17.1



(10) も含めてデザインのことはあまり考えていないことがわかる。
かなり低い数値になっている。

(10) 見た目がきれいなデザインにする

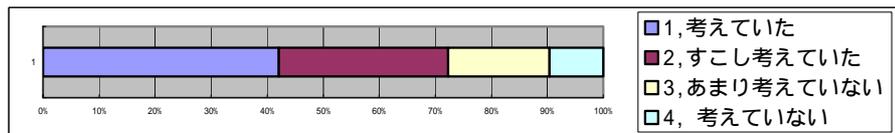
1, 考えていた	2, すこし考えていた	3, あまり考えていない	4, 考えていない
93	115	78	35
29.0	35.8	24.3	10.9



「おもしろさ」よりはまだいい数値であるけれど、やはりデザイン性はあまり考えていない。

(11) 環境を汚さないようにすること

1, 考えていた	2, すこし考えていた	3, あまり考えていない	4, 考えていない
135	97	58	31
42.1	30.2	18.1	9.7



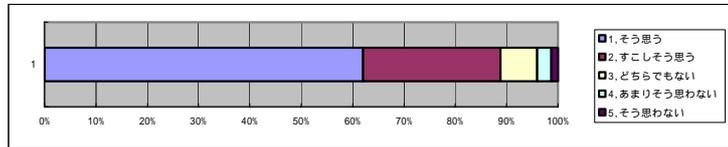
環境への配慮も指導の課題となるであろう。

2、あなたがUDの商品を使うとしたら、どのように思ったからですか。

[1.そう思う2.すこしそう思う3.どちらでもない4.あまりそう思わない5.そう思わない]

(1) 子どもからお年寄りまで、どんな人にも使いやすいから

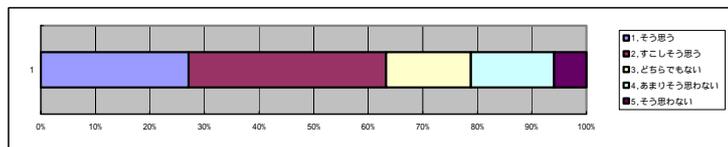
1.そう思う	199	62.0
2.すこしそう思う	86	26.8
3.どちらでもない	23	7.2
4.あまりそう思わない	9	2.8
5.そう思わない	4	1.2



「使いやすい」という概念の中でもこの項目はかなり低い。しかし、「使いやすさ」の尺度構成ではこの項目も尺度を構成している。

(2) 楽しそうだから

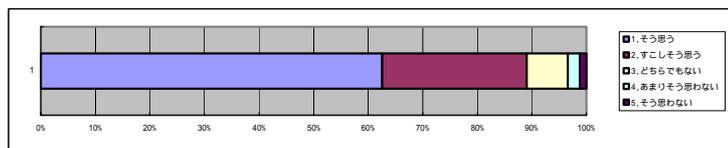
1.そう思う	87	27.1
2.すこしそう思う	116	36.1
3.どちらでもない	50	15.6
4.あまりそう思わない	49	15.3
5.そう思わない	19	5.9



かなり低い数字の項目である。子供達は、デザイン性や新奇性といった部分はあまり考えていないことがわかる。

(3) かんたんな力のできるから

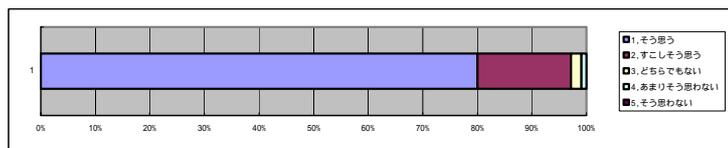
1.そう思う	201	62.6
2.すこしそう思う	85	26.5
3.どちらでもない	24	7.5
4.あまりそう思わない	7	2.2
5.そう思わない	4	1.2



「使いやすさ」を構成している項目である。子供達にはこれが一番わかりやすいUDの概念なのかもしれない。

(4) 使いやすいから

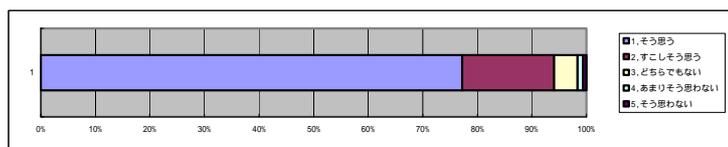
1.そう思う	257	80.1
2.すこしそう思う	55	17.1
3.どちらでもない	6	1.9
4.あまりそう思わない	3	0.9
5.そう思わない	0	0.0



「使いやすいから」というこの項目が一番数値が高い。子供達がUDを選択する理由も、作っている時に、考えていた理由もこのあたりにあることがわかる。

(5) とても便利だから

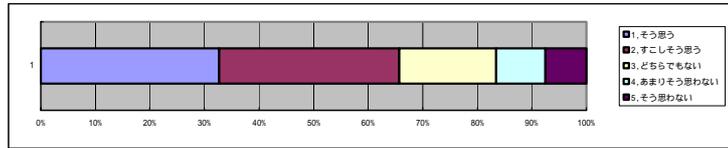
1.そう思う	248	77.3
2.すこしそう思う	54	16.8
3.どちらでもない	14	4.4
4.あまりそう思わない	3	0.9
5.そう思わない	2	0.6



便利さの追求もこのUDの課題であり、かなり数値が高い。

(6) あまりつかったことがないから

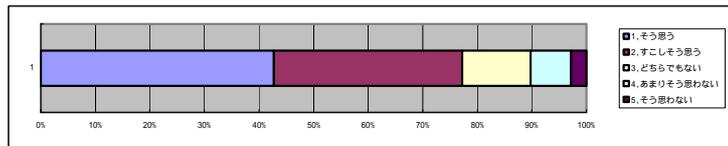
1.そう思う	105	32.7
2.すこしそう思う	106	33.0
3.どちらでもない	57	17.8
4.あまりそう思わない	29	9.0
5.そう思わない	24	7.5



「使ったことがない」という新奇性の項目はかなり低い。

(7) ぶつうの商品とどう違うのかためしてみたいから

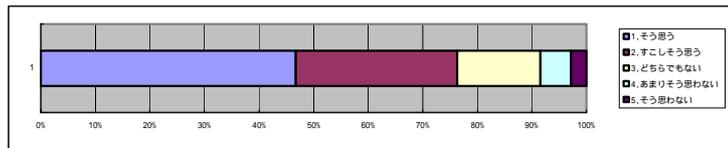
1.そう思う	137	42.7
2.すこしそう思う	111	34.6
3.どちらでもない	40	12.5
4.あまりそう思わない	24	7.5
5.そう思わない	9	2.8



これも新奇性を問う設問である。数字が低い。

(8) 安心して使えるから

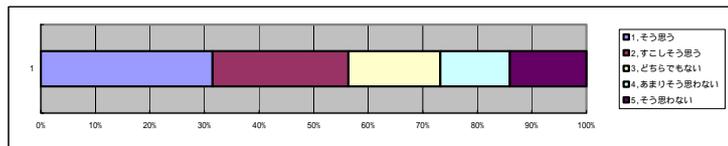
1.そう思う	150	46.7
2.すこしそう思う	95	29.6
3.どちらでもない	49	15.3
4.あまりそう思わない	18	5.6
5.そう思わない	9	2.8



安心して使えるからという設問が児童には汲み取りにくかった可能性あり。ただ、危険配慮の項目を形成している。やや高いという数字になっている。

(9) わたしも作ってみたいから

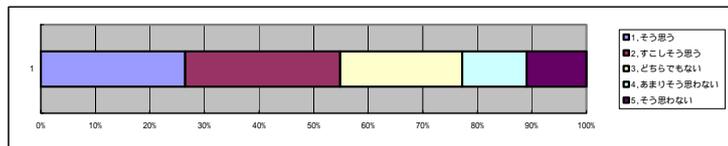
1.そう思う	101	31.5
2.すこしそう思う	80	24.9
3.どちらでもない	54	16.8
4.あまりそう思わない	41	12.8
5.そう思わない	45	14.0



新奇性の部分は低い数字になっている。

(10) 体の不自由な方はどんな感覚を感じているのか知りたいから

1.そう思う	85	26.5
2.すこしそう思う	91	28.3
3.どちらでもない	72	22.4
4.あまりそう思わない	38	11.8
5.そう思わない	35	10.9



新奇性というよりは、「体験の意志」を問うている。かなり微妙な設問であった。この部分は感じてはいるけれど、もう少し数字があってもいいと考える。

以上のような単純集計の結果を得た。

そこで、「1、UDを考えている時にどのようなことを考えながら活動していましたか。」「2、あなたがUDの商品を使うとしたら、どのように思ったからですか。」の21項目について、クラスター分析(平方ユークリッド距離、ワード法)を施した。それにより、以下のような項目群が形成された。

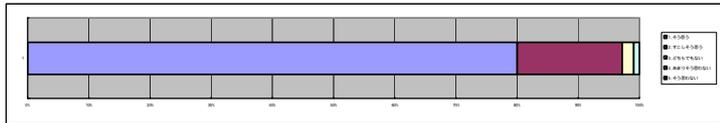
[項目群1 使いやすさ]

第1の項目群は、「使いやすい」ということに関する項目が並んだ。どの項目も「そう思う」「すこし思う」が多い。この「使いやすさ」を意識して活動していたことがよくわかる。

- (5) とても便利だから
- (3) かんたんな力のできるから
- (1) 子どもからお年寄りまで、どんな人にも使いやすいから
- (7) たくさんの人に使ってもらいたい
- (8) 自分で考えたものが役立ってほしい
- (1) 子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすいようにする
- (2) 体が不自由な人が使いやすいようにする
- (5) 自分にも使いやすいようにする

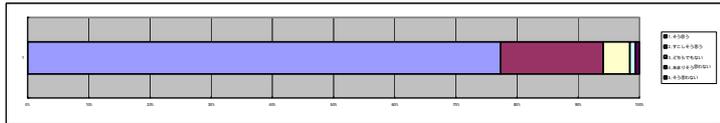
(4) 使いやすいから

1.そう思う	257	80.1
2.すこし思う	55	17.1
3.どちらでもない	6	1.9
4.あまりそう思わない	3	0.9
5.そう思わない	0	0.0
321	100.0	



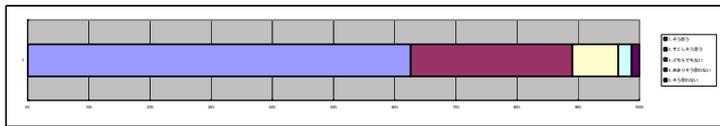
(5) とても便利だから

1.そう思う	248	77.3
2.すこし思う	54	16.8
3.どちらでもない	14	4.4
4.あまりそう思わない	3	0.9
5.そう思わない	2	0.6
321	100.0	



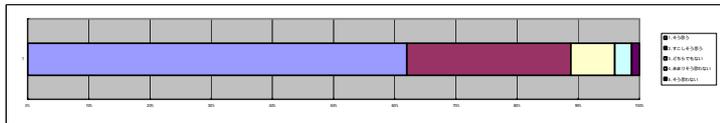
(3) かんたんな力のできるから

1.そう思う	201	62.6
2.すこし思う	85	26.5
3.どちらでもない	24	7.5
4.あまりそう思わない	7	2.2
5.そう思わない	4	1.2
321	100.0	



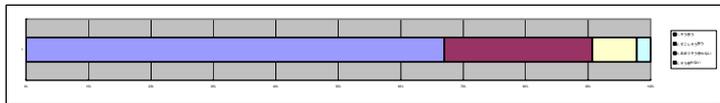
(1) 子どもからお年寄りまで、どんな人にも使いやすいから

1.そう思う	199	62.0
2.すこし思う	86	26.8
3.どちらでもない	23	7.2
4.あまりそう思わない	9	2.8
5.そう思わない	4	1.2
321	100.0	



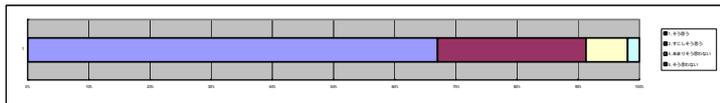
(7) たくさんの人に使ってもらいたい

1.そう思う	215	67.0
2.すこし思う	76	23.7
4.あまりそう思わない	23	7.2
5.そう思わない	7	2.2
321	100.0	



(8) 自分で考えたものが役立ってほしい

1.そう思う	215	67.0
2.すこし思う	78	24.3
4.あまりそう思わない	22	6.9
5.そう思わない	6	1.9
321	100.0	



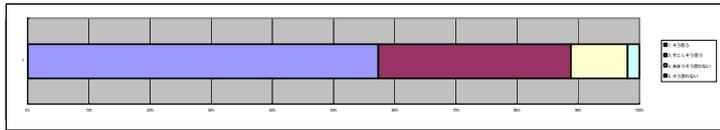
(1) 子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすいようにする

1.そう思う	216	67.3
2.すこし思う	90	28.0
4.あまりそう思わない	11	3.4
5.そう思わない	4	1.2
	321	100.0



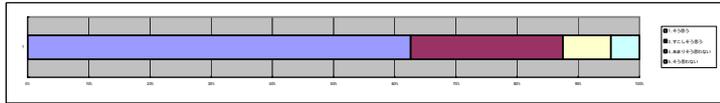
(2) 体が不自由な人が使いやすいようにする

1.そう思う	184	57.3
2.すこし思う	101	31.5
4.あまりそう思わない	30	9.3
5.そう思わない	6	1.9
	321	100.0



(5) 自分にも使いやすいようにする

1.そう思う	201	62.6
2.すこし思う	80	24.9
4.あまりそう思わない	25	7.8
5.そう思わない	15	4.7
	321	100.0



[項目群2 安全性・環境への配慮]

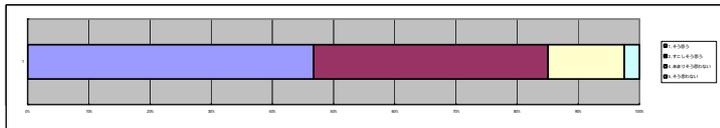
「使いやすさ」を意識して活動していることはすでに述べた。しかし、「危険に対する配慮」「環境に対する配慮」については、「使いやすさ」にくらべて数字が悪くなっている。

(3) 危険がないようにする

- (1) 環境を汚さないようにすること
- (7) ふつうの商品とどう違うのかためしてみたいから
- (8) 安心して使えるから

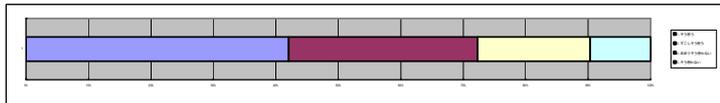
(3) 危険がないようにする

1.そう思う	150	46.7
2.すこし思う	123	38.3
4.あまりそう思わない	40	12.5
5.そう思わない	8	2.5
	321	100.0



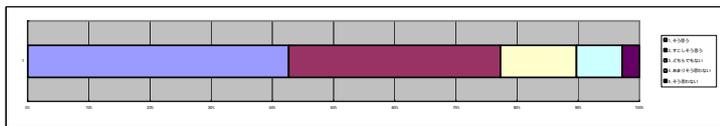
(11) 環境を汚さないようにすること

1.そう思う	135	42.1
2.すこし思う	97	30.2
4.あまりそう思わない	58	18.1
5.そう思わない	31	9.7
	321	100.0



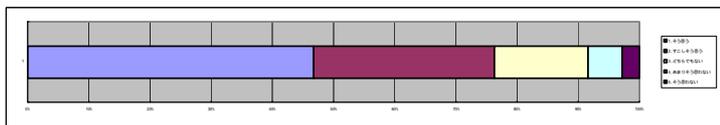
(7) ふつうの商品とどう違うのかためしてみたいから

1.そう思う	137	42.7
2.すこし思う	111	34.6
3.どちらでもない	40	12.5
4.あまりそう思わない	24	7.5
5.そう思わない	9	2.8
	321	100.0



(8) 安心して使えるから

1.そう思う	150	46.7
2.すこし思う	95	29.6
3.どちらでもない	49	15.3
4.あまりそう思わない	18	5.6
5.そう思わない	9	2.8
	321	100.0



以下のような結果をまとめる。

[項目群1 使いやすさ]

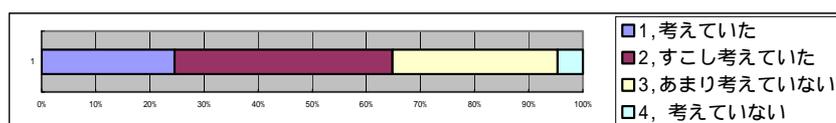
第1の項目群は、「使いやすい」ということに関する項目が並んだ。どの項目も「そう思う」「すこし思う」が多い。この「使いやすさ」を意識して活動していたことがよくわかる。このことは、UDの製品を考え出す上では、重要な点である。教師もこのことを意識させることで指導を進めてきたことが十分に考えられる。

[項目群2 安全性・環境への配慮]

しかし「危険に対する配慮」「環境に対する配慮」については、「使いやすさ」にくらべて数字が悪くなっている。さらに残念なことに、「製品を見て使い方がすぐわかるようにする」という項目も非常に悪い結果を得ている。

(4) 製品を見て使い方がすぐわかるようにする

1,考えていた	2,すこし考えていた	3,あまり考えていない	4, 考えていない
79	129	98	15
24.6	40.2	30.5	4.7

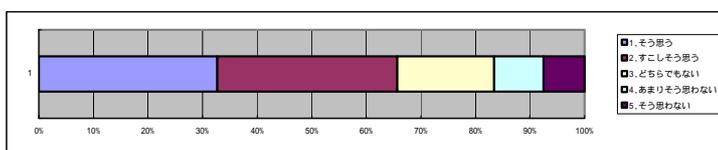


新奇性について]

子どもたちは新しい文房具には高い関心を示す。目新しいものがあると、すぐを買ってくる。しかし、「あまりつかったことがないから」「わたしも作ってみたいから」という項目については比較的関心が低い結果となっている。これは、「購買意欲」と「製作意欲」とは別なものになっていることを表しているのではないかと考える。

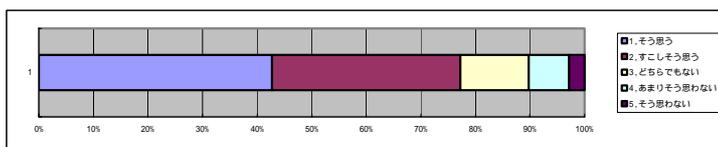
(6) あまりつかったことがないから

1,そう思う	105	32.7
2,すこしそう思う	106	33.0
3,どちらでもない	57	17.8
4,あまりそう思わない	29	9.0
5,そう思わない	24	7.5



(7) ふつうの商品とどう違うのかためしてみたいから

1,そう思う	137	42.7
2,すこしそう思う	111	34.6
3,どちらでもない	40	12.5
4,あまりそう思わない	24	7.5
5,そう思わない	9	2.8



『ユニバーサルデザインの7原則』は下記の要件がある。

- だれにでも公平に使える
- 多様な使い手や使用環境に対応し、
使う上での自由度が高いこと
- 使い方が簡単ですぐに分かる
- 必要な情報がすぐに理解できる
- 間違いにくく失敗や危険につながりにくい
- 無理な体勢をとることなく、少ない力で楽に使える
- 使いやすい大きさと空間が確保されている

つまり、「安全性」「環境」に配慮することは非常に重要な点である。

子どもたちには、この点を意識することの重要性をもっと意識させるような活動の展開も考えられるだろう。

2-2 教師の意識調査

2-2-1 調査目的

ユニバーサルデザイン(以下UD)プロジェクトに取り組んだ教師が、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする。

2-2-2 方法

(1) 調査対象者

UDプロジェクトの授業を行った教師 8名

(2) 調査期日 2004年1月7日～20日

(3) 調査項目

これは、「UDの活動」についてのアンケートです。「UDの活動」を通して考えたこと感じたことを思い出して教えてください。選択肢の解答は、その番号の前に をつけてください。

<例: 1、そう思う>

(1) 授業へはどのような形で提案しましたか。(複数解答可)

- 1、総合的な学習の時間から
- 2、国語科から
- 3、福祉的面から
- 4、図工から
- 5、美術から
- 6、その他()

(2) 授業の導入をどのように行ったか書いてください。

(3) 子ども達は興味をもって活動していましたか

- 1、そう思う
- 2、すこしそう思う
- 3、どちらでもない
- 4、あまりそう思わない
- 5、そう思わない

(4) UDの授業の教育的意義を書いてください。

(5) UDの授業後の子どもたちの反応を書いてください。

アンケートはここで終わりです。記入もれがないように確かめてください。

2-2-3 結果と考察

(1) 授業へはどのような形で提案しましたか。(複数解答可)

総合的な学習の時間から 5人

社会科から 5人

総合的な学習の時間・社会科からのアプローチが多い。総合的な学習では福祉的な面から、社会科ではラウムを使って自動車工業のところなどからのアプローチがあった。

(2) 授業の導入をどのように行ったか書いてください。

身の回りにある工業製品を書き出したり、町の様子などに目を向けさせたりする。基本的人権の尊重の精神から考える。人の命は大事にされているかという観点で、戦争、病気、福祉などについて調べるうちの一つとして取り上げる。など様々な導入の方法が見られた。共通する点は「自分の身の回りから考えていく」ということ。そのための手立てとして、UDの文具を使わせておいたあとにUDの考えを知らせたり、学校のまわりなどの写真を見せ、気づきを発表させたりしていた。以下、主だった意見を列記する。

5年社会科の「ものづくり」から、作り手はどのような思いで「もの」を作っているのか話し合い、その中で、みんなが使いやすいものという考えが出てきたときに、「UD」のことを紹介した。「使う人のこと」を意識した考え方が出てくるまでUDのことは出さなかったが、言葉は知らなくてもUDの考え方は、4年のときに「福祉」を意識した活動を行ってきたようで、子どもたちの口からいろいろと出てきた。

社会科は、自動車工業からUDの考え方を取り入れた車があるということでラウムを見ることから入った。その後、身近にあるいろいろなものを見直し生活を便利にするものがたくさん生まれていることに気付かせた。

1学期から続けてきた幼稚園、保育所、福祉施設との交流活動を振り返る。

「人の気持ちを考えて人と接する」という結論がでたが、本当に相手の気持ちを理解できているのか課題を投げかける。

老人や幼児の気持ちをより知りたいと老人、障害者、幼児の体験を一週間継続して行う。UDの文具などの道具を簡単に使わせておく

学校のまわりの道路や様々な施設の写真を見せて気づきを発表させ、身のまわりに目を向けさせる。その後、UDの自動販売機と普通の自動販売機を比べさせ、UDを紹介する。次に高齢者疑似体験をさせ、高齢者の生活を体感させる。そして、“ の町は、みんなにとって住みよい町だろうか？”という課題を設定した。子供たちは、それぞれに様々な視点から町をUDの視点から調べていった。

(3) 子ども達は興味をもって活動していましたか

- | | |
|--------------|----|
| 1、 そう思う | 5人 |
| 2、 すこしそう思う | 2人 |
| 3、 どちらでもない | 0人 |
| 4、 あまりそう思わない | 0人 |
| 5、 そう思わない | 0人 |

ほとんどが「そう思う」と答えている。授業後においても興味深く取り組むことができる内容として評価された。

(4) UDの授業の教育的意義を書いてください。

1. 自分と違った相手の立場にたって考えることができるようになる。相手を思いやる心を持ち、相手を意識した伝え合いができる。
2. 発想を鍛える、生活を便利にしようとする
3. 基本的人権の尊重がわかりやすいイメージとなる。
4. 考えたひとや企業の努力に敬意の念を持つことができる。

などといったことが出された。多くの答えに共通して、いろいろな人の立場を考えることが、子どもたちのほかの人々へのやさしさや思いやりを育てることになるということがある。以下、主だった意見を列記する。

「バリアフリー」という考え方は、障害がある人のためという風に考えてしまい、自分たちにはあまり関係ないとなってしまうがちであったが、「UD」は、自分たち子どもにも関わりがあるし、「だれにでも使いやすい」という考えそのものに、共感していた。また、自分たちが普段使っているものでも、改良の余地がたくさんあり、実践化を図りやすかった。

相手の立場に立って考える経験をすることで、相手意識が高まる。これは、情報教育で相手を意識して伝えることにも通じる。また、発想豊かにデザインを考えることは、子どもたちの発想を鍛えることにもつながる。図画工作科にもつながる。

UDの考えに触れることで、基本的人権の尊重がわかりやすいイメージとして理解できる。UDの考えで作られた商品にふれ、それを調べることで、それを考えた人や企業の努力に敬意の念をもつことができる。UDの考えで周りを見直したり、商品を考えたりすることで、生活を便利にしようとしたり、他を思いやる気持ちが育つ。

自分の身の回りをもう一度見つめなおそうという気持ちが出てきた。いろいろな人に対する(障害のある人だけではなく)思いやりの気持ちが出てくる。環境を見つめ直すこと、自分の視野を広げること、未来の社会を考えることなどUD自体を自分の身近なものとして捉え直すことができる。

もっと住みやすい町にしたいと、自分たちの今の生活を自分たちだけではなく、幼児やお年寄りなど違った立場の人の気持ちを想像しながら考えることができる。

だれもが平等に使え、1部の人のことを考えるのではなく、みんなが共通に使いやすいものを考える点。だれにとってもいいものはいいということ、ものを通していろいろな対場の人のことを考えることができる点

自分以外の人へのやさしさや思いやりがUDの本質なので、様々なUDを学ぶことが、子供たちの他の人々へのやさしさや思いやりを育むことになるので教育的意義が大きい。

(5)UDの授業後の子どもたちの反応を書いてください。

多くの答えに、視野の広がりや視点の変化が挙がっている。子どもたちは、UDを学ぶことで誰にでも優しいという視点を持ち、たくさんの人と共に生きていることに気付いてきているといえるのではないかと。以下、主だった意見を列記する。

生活の中にたくさんあふれているUDを見つけることが楽しくなったようである。大人は気付かなかった便利なことを見つけては、「 だったら私たちには便利なのに……」と訴えて来ることが多くなった。「私たちのことも、もっと考えてよ！」とでも言いたげな表情を見せたり、改善策を出したりとどんどん意見を言えるようになってきた。

自分たちの持ち物や、学校の備品について、これはUDじゃないとかここをもっと工夫したらいいのという話題が出て、ものを見る視点がUD的になった。すべての人にやさしいUDを考えたおかげで、基本的人権の尊重が理解しやすかった。UD商品を手にとって調べるのがとても楽しそうだった。友達同士の会話が弾んだ。UDを考えて商品化している企業に対する親近感がうまれた。

子ども達の視野が広がったように感じる。ものが環境に優しいかとか誰にでも便利かなどというものの見方だけでなく、心の面でもそういう考え方が少しずつできるようになってきている。

UDのものを町で見つけてくるようになった。

UDの施設や道具には、お金がたくさんかかるものもあるが、UDの施設や道具がなくても私たちの心がUDになることができる。私たちの他の人々へのやさしさや思いやりがUDになる。

3 総合考察

以上、児童向けアンケートと教師向けアンケートの考察を進めてきた。そこで横断的な考察を試みる。

児童が活動するにあたっては、「使いやすさ」ということを中心に考えていたことがわかる。教師の方は、「相手に対する思いやりの気持ち」「自分の身の回りをもう一度見つめ直すこと」を主眼に指導を進めて来て、その成果があがったことを報告している。活動する子どもたちと指導する教師との間で、UDプロジェクトに取り組む姿勢に若干の開きがあることがわかる。この間隙を埋める必要があるかどうかは議論の余地が存在するであろう。

ただ、UDの授業を進めていく上では、とかく「使いやすさ」というもの目が行きがちであることがわかった。しかし、実際の社会では、それに加えて「安全性」というものが重視されなければならない。もちろん環境への配慮なども考えておかねばならない点である。UDの活動を通して、教師も子どもたちも、この『UDの7原則』に立ち戻って考えていくことも大切な一面であると考えている。

4 まとめ

ユニバーサルデザインプロジェクトの1年間の総括として、2003年3月27日、東京での「春の公開研究会」で行った「子どもプレゼン、UDアイデアコンテスト」について報告された。

熊本大学教育学部附属小学校、金沢市立大徳小学校をはじめ全国5校の子どもたち11人が自分の考えたUDデザイン10作品についてプレゼンテーションを行った。ものさしやのり、セロハンテープカッターなど身近な道具について、どこがどう不便なのか、そのためにどうデザインしたのか、学習を終えて思ったことなどについて、表情豊かにそしてプレゼン画面を指しながらすばらしい発表を行ってくれた。会場からは大きな拍手や笑いがおこるなど、終始和やかな中にも、緊張感のあるコンテストとなった。子供たちのアイデアの豊かさや将来に対する見方の確かさを実感し、子どもたちに頼もしさを感じた一日だった。

ユニバーサルデザインを考える根底に流れるやさしさ、思いやり…。

この報告書を読まれたみなさんの実践のヒントにしていいただければ幸いである。